

旅行安全の祈祷（水路）

輔司誦

君や、祝讃せよ。

我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
アミン。

常套の始め

我等の神や光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。
天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。（三次）
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

司誦

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。（三次）

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救い給え。

蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。

アミン。

主憐めよ（三次）。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

来たれ、我等の王神に叩拝せん。

来たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。

来たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第二百二十聖詠

我目を挙げて山を望む、我が助は彼處より来らん。我が助けは天地を造りし主より来る。彼は爾の足に蹟くを許さざらん、イズライリを守る者は、眠らず、寝ねず。主は爾を守る者なり、主は爾の右の手の庇陰なり。昼に日は爾を傷めざらん、夜に月も亦然り。主は爾を諸の禍より守らん、主は爾の霊を守らん。主は爾の出入を守りて今より世世に至らん。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光荣は爾に帰す。(三次)

大聯禱

我等安和にして主に祈らん。

主憐めよ。(以下每次同様)

上より降る安和と我等が霊の救の為に主に祈らん。

輔 詠 輔

全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祈らん。此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の為に主に祈らん。教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教(某)、主教(某)、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に祈らん。

輔 輔 輔

我が国の天皇、及び国を司る者の為に主に祈らん。

此の都邑と凡の都邑と地方、及び信を以て此の中に居る者の為に主に祈らん。

氣候順和、五穀豊穰、天下泰平の為に主に祈らん。

航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、虜となりし者、及び

彼等の救の為に主に祈らん。

輔

今我等を以て祈る所の爾の僕(婢)〔某〕に慈憐と恩恵と仁愛とを垂れて、彼(等)に凡の自由と自由ならざる罪を赦し、其航海に祝福するが為に主に祈らん。

輔

暴風を鎮め、平穩なる航海を與え、昔其使徒等に於けるが如く、今、彼(等)にも仁慈を賜るが為に主に祈らん。

輔

昔使徒等に於けるが如く、其慈憐なるに依りて、彼(等)の為に颶風を鎮め、

輔 禱を収め、無難なる航海に平穩を與えんが為に主に祈らん。

輔 彼（等）に守護神使を遣わして彼（等）を導き、凡そ見ゆると見えざる諸敵の悪謀より蔽い、及び激浪に溺るるを免れしむるが為に主に祈らん。

輔 彼（等）を平安、無事に導き、壮健、安全にして帰らしむるが為に主に祈らん。

輔 彼（等）の企に降福して、爾の至聖なる名の光榮の為、及び彼（等）が靈と体との利益の為に、之を成就せしむるが為に主に祈らん。

輔 其恩寵の力を以て、彼（等）を靈体の諸の災害と危難、病と変死、及び凡そ

生命を害せんとする傷より免れしめ、其慈憐なるを依りて、彼（等）に壮健と安全を與え、善き時に於いて帰郷せしむるが為に主に祈らん。

輔 神や、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ。

輔 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互いに各の身を以て、並びに悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん

司 主爾に。

司 蓋凡そ光榮尊貴伏拝は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。

詠 アミン。

主は神なり

輔 主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。

輔 主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。（三次）

輔 （句）主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして、その憐は世世にあればなり。

輔 （句）彼等我を圍み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり。

輔 （句）我死せず、猶生きて主の行う所を傳えん。

輔 （句）工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす。

トロパリ（第二調）

詠 救世主、独人を愛する主や、爾に趨り就き、爾を造物主及び主宰と仰ぎて、爾

の全能なる右の手より助と降福とを求むる者を退くる勿れ、昔言を以て海に

於いて爾の使徒に平穩を賜いし如く、今も生神女の祈祷に依りて、爾の諸僕（婢）

に平穩にして無事なる航海と壮健とを與え給え。

光榮は父と子と聖神に歸す、
救世主や、凡そ侍を爾に負わしめし者には、扶助者及び救助者となりて、彼
(等)の善き企と旅行とに福を降し賜え、我等皆、爾唯一なる萬物の賦與者を
讃榮せんが為なり。

今も何時も世世に、アミン。

生神童貞女独り淨くして讃美たる者や、我等爾の覆の下に趨り就く、憂の時に
我等の祈を退くる事なく、我等を禍より救い給え。

謹みて聴くべし。

衆人に平安。

爾の神にも。

睿智。

ポロキメン

我死の蔭の谷を行くとも害を懼れざらん、蓋爾は我と偕にす。
我死の蔭の谷を行くとも害を懼れざらん、蓋爾は我と偕にす。

輔 司 輔 誦 誦 詠

爾の仁慈と慈憐とは、我が生命ある日我に伴わん。

我死の蔭の谷を行くとも害を懼れざらん、蓋爾は我と偕にす。

我死の蔭の谷を行くとも害を懼れざらん、

蓋爾は我と偕にす。

睿智。

聖使徒行実の読み。

慎みて聴くべし。

誦 詠 誦 輔 誦 輔

書 札 (使徒行実 二一・一七)

「彼の日、我等は彼等に別れて、舟行して、徑にコスに至り、次の日ロドスに至り、彼
よりパトラに適き、フィニキヤに濟るべき舟に遇いて、之に登りて行けり。キプルを望み見
て、之を左に遺し、シリヤに航り、テイルに着けり、蓋舟は彼に於いて載を卸すべか
りしなり。我等門徒に遇いて、此に居りしこと七日。彼等神に因りて、パウエルにイエルサ
リムに上る勿らんことを言えり。七日を越えて、我等出でて往き、彼等其妻子と偕に
我等を送りて、邑の外に至り、岸に在りて我等皆膝を屈めて祈れり。互に別を告げ

て後、我等は舟に登り、彼等は家に帰れり。我等テイルよりプトレマイダに航りて、舟
行を終えたり、彼處に兄弟に安を問いて、一日與に居りき。」

詠 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ。

輔 睿智、肅みて立て、聖福音經を聴くべし。

司 衆人に平安。

詠 爾の神にも。

司 マルコ伝の聖福音經の読み。

詠 主や、光榮は爾に帰し、光榮は爾に帰す。

輔 謹みて聴くべし。

福音 (マルコ伝 四・三五―四一)

「主は其門徒に謂えり、我等彼の岸に濟るべし。彼等民を去らしめて、彼を猶舟に
在るまま取りて往けり、他の舟も亦彼と偕に在りき。颶風大に起り、浪舟に打ち入
りて、殆ど満つるに至れり。時に彼は舟尾に在りて、枕して寝ねたり、彼を醒まして曰

く、師よ、我等が亡ぶるを爾顧みざるか。彼起きて、風を禁め、海に謂えり、默せ、
靖まれ、風即ち息みて、大に穩になれり。又彼等に謂えり、爾等何為れぞ是くの
如く怯るる、何ぞ信なき。彼等大に懼れて、互いに謂えり、此れ何人ぞ、風も海も亦
彼に順う。」

詠 主や、光榮は爾に帰し、光榮は爾に帰す。

重聯禱

輔 神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

詠 主憐めよ。(三次) (以下每次同様)

輔 又我が国の天皇、及び国を司る者の為に主に祈らん。

輔 又教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、

輔 及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に祈る。

昔、風と浪とを退け言を以て舟に平穩を與え、門徒を無難ならしめし仁慈の主や、
今も熱心にして爾に伏し拝む、爾の諸僕(婢)の祈禱を顧みて、彼等の航海に福を

輔 降し、彼（等）に平穩、安和、無難なる旅行を賜え、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

陸の如く水を履みし救世主、其全能の手を以てペトルを溺るるより救いし主や、信じて爾の守護に趨り就き、航海せんとする者を、凡の禍と颶風より脱れしめ、慈憐を以て彼（等）に無難なる往復を賜え、至と鴻恩なる主や、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

輔 至りて慈憐なる主や、爾の神使同行者を遣わして、彼等の靈と体とを守り、凡の見ゆると見えざる諸敵より扞ぎ蔽い、爾が神聖なる力を以て彼等を凡の憂愁、災禍、危難、疾病、及び死を致す傷より免れしめ、爾が至聖なる名の光榮の為に、彼等を善き時に於いて、壯健、無事にして其家に帰らしめ給え、全能の主宰や、爾に祈る、仁慈を以て聆き納れて憐めよ。

司 神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃や、我等に聞き給え、主宰や、我等の罪に仁慈を垂れ、仁慈を垂れて我等を憐み給え、蓋爾は仁慈にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

詠 アミン。

輔 謹んで、爾等の膝と首を屈めて、主に祈らん。

詠 主憐めよ。（三次）

※（皆膝を屈む、司祭は彼等に向いて王門の中央に立ち、高声を以て左の祝文を誦す。）

司 主宰イイスス・ハリストス我等の神、陸の如く水を履み、其聖なる門徒と使徒に己と偕に舟に乗るを得せしめ、大風を斥け、海の激浪に鎮まるを命ぜし救世主や、我等謙卑の心を抱きて爾に祈る、爾今も此の爾の諸僕（婢）と偕に此の船に乗るを賜い、凡の逆風と颶風を鎮め、無難なる航海と、宜しきに適う順風を起し、親ら常に彼（等）の為に舟長となり、彼等及び舟の為に穩にして霽れたる救を為す湊となり、爾の権に由りて爾の全能の手を以て彼等を溺と凡の見ゆると見えざる諸敵の悪謀より救い、災禍と危難と威嚇より免れしめ、彼等が其計画と善き企とを成就して、無事、壯健、平安にして、樂しみて家に帰るを得せしめ、彼等と其悉くの所行に爾の豊にして盡きざる恩寵を賜い、其舟をも全うして、之を損いなく護り給え、

蓋爾は救世主及び救助主、凡そ天地の幸福の豊なる賦與者なり、我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに献ず、今も何時も世世に。

詠 アミン。

※(司祭、十字架に接吻せしめ、彼(等)に聖水を灌ぎ祝福して曰く。)

司 願わくは主はシオンより降福し、爾(等)が生命の凡(およそ)の日に於いて善きイエ
サリムを見んが為、及び彼の聖なる名の光栄を顕わさんが為に、爾(等)の道を直
くせん。

輔 睿智。

司 至聖なる生神女や、我等を救い給え。

詠 ヘルワイムより尊くセラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、
実の生神女たる爾を崇め讃む。

司 ハリストス神我等の侍や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

詠 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ(三次)。
福を降せ。

司 ハリストス我等の真の神は、その至浄なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、重使徒
日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は
善にして人を愛する主なればなり。

詠 アミン。

幾 歳 も

輔 主や、今此處に立ちて祈る神の僕(婢)〔某〕に、萬福にして平安なる度生、壮
健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩を與えて、彼(等)を幾歳にも護り給え。
詠 幾歳も。(三次)